

子連れの結婚式



デンマーク・ヘルシンガー市在住

小野寺 綾子

デンマークでは正式に結婚しているカップル、もしくは結婚届けを出さなくて暮らしているカップルの初婚での離婚率は約43%と非常に高いです。法律的に結婚していないカップルから生まれた子供は私生児あつかいにはならず、結婚している親から生まれた子供と法律上の差別はありません。親権はたいてい母親にいきますが、父親も子供に会う権利があるので、子供は1~2週間ごとに父と母の家を往復するのが一般的です。子供を連れて再婚するのは珍しくありません。

国民の模範家族を演じていたヨーロッパの王室は、以前より離婚の重圧がなくなりました。デンマーク王室も例外ではなく、2年前にマルガレーテ女王の次男ヨアキム王子(39歳)が香港出身のアレクサンドラ(43歳)と離婚しました。

1995年11月に結婚したヨアキム王子とアレクサンドラ・マンリーのことは、「Hoppoken」誌に書いたことがあります。アレクサンドラが遠い香港から来た頭の切れる、東洋美人であったことや二人が極秘に交際をしていたので、突然の婚約発表にゴシップ週刊誌や国民が驚いたものです。語学が達人なアレクサンドラが短期間でデンマーク語を習得したことが話題になりました。結婚式の前に、雪が降る中を馬車で王宮からコペン

ハーゲン市庁舎までパレードをしたり、女王の息子が結婚するということでしたので、国民の注目を浴びた結婚式でした。その後二人の王子に恵まれましたが、2004年に別居し、離婚しました。

アレクサンドラは、2007年春にかねてから交際していた13歳年下のカメラマンと結婚しました。プリンセスの称号を失いましたが、代わりにフレデリックスボー伯爵夫人と呼ばれます。再婚後も、アレクサンドラはいくつかの名誉総裁職も続けており、今でも仕事によってはヨアキム王子と同席することがあります。

5月24日に、ヨアキム王子がフランス人のマリエ・カバリエ嬢(32歳)と再婚しました。新しくデンマークのプリンセスになったマリエは、アメリカの大学に留学経験がある、非常に明るい感じの女性です。前回の結婚式は、コペンハーゲン北にある王宮と教会で華やかに行われたのに比べると、今回は地味で、王子の館がある地元の町、北ユトランドのドイツ国境に近いトナーの由緒ある教会がありました。教会での結婚式はテレビ中継されましたが、晩餐会はプライベートなので公表されませんでした。教会でヨアキム王子は二人の子供と一緒に花嫁の入場を待っていましたが、父に付き添われてバーজনロードを歩くマリエ嬢を見て、感極まり子供を抱きし



マリエ王女、ヨアキム王子と二人の王子たち



涙をぬぐうヨアキム王子

めて涙ぐみました。この中継を見ていた国民は、4年前兄のフレデリック皇太子が自分の結婚式で、メアリー皇太子妃が父と教会に入って来た時やはり涙をこぼしたので、この涙もろい兄弟を重ね合わせました。

マルガレーテ女王の夫はフランス人ですから、フランス系のマリエ嬢の結婚は歓迎されています。フランス人にとってデンマーク語の発音は難しいようで、いつまでたってもフランス語のくせが抜けないデンマーク語を話す女王の夫を、よく芸能人が物まねします。デンマーク国民は自他とも認める大の王室ファンです。これから公務がはじまると、マリエ王女はデンマーク語の習得やファッションなどメアリー皇太子妃やアレクサンドラと良くも悪くも比較されるのでちょっとつらいかもしれせん。